

# JAIR NEWSLETTER

## 日本国際政治学会

No. 43

April 1988

### B I S A 大会に出席して

平井友義 (大阪市立大学)

昨年暮れ、私はイギリスはウェールズのアバリストウイスで開かれた英国国際政治学会 (B I S A) 年次大会に出席する機会があった。幸いにも学会議の国際大会代表派遣計画を利用することができたので、わが学会の代表ということで参加した。会場となったウェールズ大学国際政治学部については、若き E・H・カーがかって一時教壇に立っていたことぐらいしか覚えていなかったが、1919年にイギリスで初めての国際政治学のチェアが設けられたのがこの大学であったことを、あとになって知った。

大会は12月16日から18日まで、アバリストウイスの目抜き通りからただら坂をしばらく登った一角で行われたが、参加者 (約180名) の大部分は、クリスマス休暇で空いた学生寮に寝泊りして朝から晩までぎっしり詰った日程をこなした。町はロンドンから急行列車で北西へ五時間ほどのところにあるカーディガン湾に面した大学町で、浜辺を見おろす崖のうえに古い城跡が残っているところから、昔はバイキングの襲撃からウェールズを守る要衝の一つであったのであろう。私は出発前には、ウェールズとイングランドは歴史的起源がちがいで、英語と全く別系統のウェールズ語がまだ一部で使われていること位の知識しかなかったが、この町に来て、公共の標示がまずウェールズ語で書かれ、その下に小さく英語が並べられているのを見たり、町角でそう年輩でもない人がウェールズ語で話しているのを耳にすると、本来のイギリス内部での「国際」関係とでも呼ぶべきものの存在を感じずにはいられなかった。

大会は R・ジョンズ教授の総会講演から始まったが、外交と内政の相互浸透という新しい現実が政治理論の再構成を要請しているという主張は、二つの理論部会における論議にただちにつながるものであった。イギリスら

しく面白いなと思ったのは、これら二つの部会のネーミングで、一つは Classical British International Theory、他方は Critical International Relations Theory と名付けられていた。この区別の意味については最後まで判然としなかったが、「批判的」とは、リアリズム、構造主義、多元主義などのアプローチをすべて啓蒙主義以来の西欧的認識論の分流としてとらえ、それらの共通項たる合理主義=実証主義に対して「規範科学」としての国際政治理論の必要を唱える立場のように受け取られた。もっともこの境界はかなり混線模様であり、「古典」部会で「批判的」理論との架橋の可能性が論じられ、「批判理論」の部会でマキャベリからグラムシ・ハバーマスの「古典」が社会的解放の理念との関連で熱心に取り上げられていた。

また INF 条約の締結ということもあってソ連関係 (特に軍縮政策) のパネルはいつも盛会であったが、私の出席した限り、ゴルバチョフ政権の新しい姿勢を、単にスタイルの変化ではなく本質的な革新として正面から受けとめる議論が主流を占め、ゴルバチョフがサッチャー首相との対話をあれ程重視する理由の一半を垣間見たような気がした。ほかに印象に残ったものに、「国際社会史」への思いを自らの極東外交史研究の体験をふまえて話した P・ロー教授の報告があった。なお先年わが学会で話しをされた S・ストレンジ教授から学会のメンバーにくれぐれもよろしくとのことであった。

#### 1988年春季研究大会のお知らせ

日時： 5月21日(土)、22日(日)

会場： 帝塚山大学

共通論題： 国際関係のなかの農業問題

## 国際学術交流基金に ついてのお知らせ

かねてから予告してまいりましたように、いよいよ本年より国際学術交流基金による海外研究活動補助が開始されます。これは、本学会の30周年記念事業による収益金の中から1,400万円を基金として積み立て、その利子をもって運用するもので、ささやかな出発点ではありますが、将来さらに大きく発展させたいと考えております。この基金管理運用規定および1988年度第1回の申請受付けは、下記の通りです。

また本年1月、次の国際学術交流基金委員会が充足いたしました。(今回に限り任期1年)

川田侃(主任)、大島英樹(副主任)、大畑篤四郎(学会会計主任)、細谷千博(対外交流委員会主任)、永井陽之助、豊下栢彦、猪口邦子

何分にも学会としては初めての経験ですので、今年1年間実施したうえで、規定そのものも改訂していくことを考えております。なおこの基金は独立採算制ではなく、学会会計の特別費として運用されます(基金による利子をすべて補助金に充当するため)。会員の皆様の御協力をお願い致します。(宇野重昭)

1987年10月23日理事会承認

### 国際学術交流基金管理運用規定

#### 1. 基金の目的

この基金は、日本国際政治学会(以下、学会と略す)会員の国際的な研究活動・交流にたいする財政的な補助を行うことによって、学会の国際学術交流の発展に寄与することを目的とする。

#### 2. 国際学術交流基金委員会

前条の目的を達成するため、国際学術交流基金委員会を設置する。

委員会は、主任、副主任および3名の委員の他、学会会計主任と対外交流委員会主任の計7名(任期2年)をもって構成され、以下に定める基金の管理および運用にあたる。

#### 3. 基金の管理

基金の管理は、委員会主任の責任において行われ、これによって得られる利子収入をもって、基金運用のための資金に充てる。

#### 4. 基金の運用

##### (1) 申請の受付

以下の3項目のいずれかに該当するものについて、

毎年2回(5月および10月)、公示をもって財政的な補助の申請を受付ける。このうち、(イ)については、当該外国人研究者を学会に招待することを希望、計画している会員による申請とする。

(イ) 学会と提携関係にある海外学会を始め、国際会議に出席を予定するものうち、学会の国際学術交流の趣旨からみて有意義と判断されるような研究発表を行なうことを希望している若手・中堅の会員。

(ロ) 学会を代表して国際会議または海外学会に出席する予定の会員。

(ハ) 学会においてその研究成果を直接報告し、会員との交流を深めることがとくに有意義であるような外国人研究者。

#### (2) 受給者の選定

前項の申請のなかから、受付後3週間以内に受給者を選定する。

選定にあたっては、対外交流委員会との緊密な連絡を計るものとする。

受給額は、前項(イ)該当者にエコノミー・クラス程度の航空運賃相当額+5万円、同(ロ)該当者に同様の航空運賃相当額、および同(ハ)該当者に同様の航空運賃相当額または滞在費補助10万円とする。

なお、一度受給者となったものは、原則として以後9回は申請することができない。

#### (3) 受給者の報告義務

受給者は、原則として、受給後30日以内にその活動経過報告(研究発表のある場合にはそれを添える)を委員会に提出する。

#### 5. 会計および監査

基金の管理および運用は、会計主任による学会の特別会計として執行され、会計監査の一環として監事による監査を受ける。

#### 附 則

この規定は、昭和63(1988)年1月1日より施行される。

### 1988年度第1回申請受付け

国際学術交流基金委員会

1. 該 当 者 上記の運用規定第4条(1)に定められた3項目の活動のいずれかを、1988年8月から12月までの間に行うことを予定している会員。

2. 受付け方法 以下についての書類の郵送または提出。(書式は自由)

(1) 国際会議出席の場合:

- (イ) その国際会議について開催期日、場所、規模および性格など。
- (ロ) 出席の方法。(報告する場合は、そのテーマの内容)
- (2) 外国人招待の場合：
  - その外国人についての紹介、招待による活動の目的、方法および期日。
- (3) 所要経費の概算見積り。
- 3. 受け付け期日 1988年5月10日～22日(春季大会第2日目) 午前11時。
- 4. 受け付け場所 学会事務局または春季大会中は会場受け。
- 5. 結果 規定第4条(2)により、申請者宛に連絡。
- 6. 問い合わせ先 学会事務局  
(電話：0425-72-1101)

## 日本学術会議会員候補者・ 推薦人選考委員会

委員長 木戸 蒔

- 1. 1987年12月19日午前10時～午後2時に、市ヶ谷私学会館において、理事会で選出された7人の委員が上記委員会を開催し、以下のことを決定、理事長に報告した。
  - 1. 会員候補者に関する自薦・他薦の書類を検討し、それが要件を満たしていることを確認したうえで、慎重審議のうえ推薦のあった3名のうちから、川田侃、細谷千博両会員を日本学術会議会員候補者として選定した。
    - 1. 推薦人については、有賀貞、宇野重昭、木戸蒔、谷川栄彦の4会員を選出し、松本三郎、平井友義の両会員のいずれかをその補欠に選出した。
      - 1. 5月中旬～6月上旬に開催される政治学部門(10学会)の推薦人会議において、正規の会員候補者(6名)が選出される。
        - 1. 1985年に理事会で採択された「申し合わせ」は、以下の通りである。

### 日本学術会議会員候補者及び会員推薦人の選考 に関する申し合わせ

- 1. 会員候補者は、本学会の代表として、また日本学術会議法の精神および規定に照らして、以下の要件を満たすものとする。
  - (1) 国際政治の各専攻分野において、優れた業績を有

- すること。
  - (2) 本学会の理事を3期以上つとめ、常時研究大会等に出席して学会の実情に詳しいこと。
  - (3) 日本学術会議の総会、各種委員会等に出席して実働し、会員としての任務を果たしうること。
- 2. 会員候補者は、当分の間、2名以内とする。
  - 3. 会員候補者となることを希望する者は、自薦または他薦の方法によって、理事長にその旨を所定の期間内に届出するものとする。
    - 他薦の場合には、被推薦者の承諾を要する。
  - 4. 理事長は、選考委員会を理事会の議を経て構成し、会員候補者の選考を委員会に付託する。
    - 選考委員会が構成されないときは、理事会が選考委員会の任務を代行する。

- 5. 選考委員会は、理事会で選ばれた7名の理事からなる。
  - 選考委員会は、互選により選考委員長を選出する。
  - 選考委員が自薦または他薦の会員候補者になったときは、直ちに委員を辞任しなければならない。
  - 委員の欠員は、次点者によって補充される。
  - 選考委員会の運用手続は、別にこれを定める。
- 6. 選考委員会は、2名以内の会員候補者を選び、理事長に答申する。
- 7. 理事長は、理事に対し会員候補者の選定結果について報告し、その承認を求める。
- 8. 理事長は、第7条の結果を確定し、会員候補者に通知する。
- 9. 日本学術会議会員推薦人の候補者は、第5条の選考委員会によって選ばれる。
  - 推薦人の数は、日本学術会議会長の指定による。
- 10. 理事長は、推薦人候補者に推薦人となることの承諾を求める。
  - 推薦人候補者の承諾が得られないときは、理事長は選考委員長の合意を得て補充することができる。
- 11. 理事長は、推薦人が確定した後、推薦人を日本学術会議へ届出する。
- 12. この申し合わせの改正は、理事会における過半数の理事の賛成をもって決定する。

### 附 則

この申し合わせは、1985(昭和60)年1月19日から施行する。

## 春季研究大会共通論題趣旨

### 共通論題：国際関係のなかの農業問題

日時：5月21日(土)、22日(日)

会場：帝塚山大学

いま世界の農業は供給過剰とそれに伴う国際市況の低迷に直面して市場をめぐる競争が激化し、世界農業戦争の様相を帯びつつ、国際舞台での現下の重大問題のひとつに浮上してきている。その背後に世界農業動向の鍵を握るといわれる多国籍企業の活動があることを見逃すことはできないが、農産物輸出国相互間の輸出補助もしくは奨励政策をめぐる対立、農産物輸出国と農産物輸入国の農業保護政策をめぐる対立は、かつてない激しさを呈している。こうしたなかで、日本はこれまで世界の農産物輸入額の一割を一国で占める農産物の大輸入国として、農業の構造改善への努力とともに、輸入の自由化を段階的に進めてきたが、なお一層の市場開放を迫る声が一段と強まるなかで、農産物関連残存輸入制限の撤廃問題が世界的関心の的とされるなど、日本農業の抱える困難を倍化させている。

他方、以上のように、農産物の供給過剰・世界市場をめぐる競争の激化のなかで、人類生存という長期的見地に立ってみると、食料を含む資源の有限性と人口爆発との矛盾は基本的には一向に解消されていない。また南北問題解決のための世界的試みにもかかわらず、発展途上国の経済的自立の達成はなお容易ならぬものがあり、これに食料生産の地域的格差が折り重なって、サハラ以南の諸国の深刻な飢餓状況はいうに及ばず、世界の飢餓人口はアフリカ、アジアを中心にその絶対数はいまだに増加傾向を辿っている。さらに、ソ連農業の不振、天候等の自然条件の農業に及ぼす影響等からみて、食料貿易が東西関係においてもつ政治的・戦略的意義も、潜在的には依然としてうすれていないようにみえる。

このように、世界の農業は複雑な諸種の要因がからみ合い、その問題の国際的的重大性にもかかわらず、解明のきわめてむずかしい問題となっている。以上の諸点を勘案して、本学会では来たる春季研究大会の共通論題として第一日の午後はこの問題を取り上げ、3名の報告者を交えて討論を行うこととした。実りある討論となるよう会員諸氏のご協力を切に期待したい。

## 編集委員会だより

編集主任 木戸 蒔

第93号(1990年1月刊行予定)の編集は、国際経済の問題を中心に野林健会員(一橋大学)にお願いすることが決まりました。なお、今後独立論文の掲載を希望される方は、下記の黒柳米司副主任の自宅にお便り下さい。

### 機関誌第92号『朝鮮半島の国際政治』(仮題)の原稿募集について

昭和64年3月締切にて、朝鮮半島を舞台とする国際政治に関する論文を募集します。分析対象はこの地域の対外関係であっても、諸外国、国際機関などの対朝鮮関係であってもよい。取扱う時期は1919年の3・1独立運動以後現在までとします。重点は第二次世界大戦末期以後にありますが、巨視的な論文であれば朝鮮王朝末期まで遡ることも可。また、純粋に国内的な問題や南北朝鮮の関係を扱う論文も2~3点までは可。しかし、時事的な評論の類は扱いません。

執筆希望者は春季研究大会までに、またはその後1週間以内に、おおよそのテーマをお知らせ下さい。その後、各種の編集作業に入ります。

編集責任者 小此木 政 夫(慶應義塾大)

## 学会活動報告

2月6日(土) 午後2時~7時

国際学術交流基金委員会(大正セントラル)

2月13日(土) 午後2時~7時

運営委員会(国際文化会館)

同日 ニューズレター(42号)発行

3月12日(土) 正午~2時30分

懇談会(維持会員対象)講師・本間長世

「米国の政治動向と今後の日米関係」(国際文化会館)

3月16日(木) 午後5時30分~8時

監査会(私学会館)

3月17日(木) JAIR International Newsletter  
(No.1)発行

3月30日(木) 『国際政治』87号刊行見込

## 事務局だより

2月13日の運営委員会の決定に基づいて、春季研究大会関連の連絡、印刷物の準備などを行なっております。

## 研究分科会の近況

### トランスナショナル分科会

馬場伸也(大阪大学)

昨秋の研究大会に於て、トランスナショナル分科会は下記のようなプログラムを披露した。

共通論題：「国益を超越するもの」

報告：「超国家的利益をめざすEC」 福田耕治

報告：「『人類益』の促進を市民の手で」

馬場伸也

司会者：鴨武彦 討論者：石川一雄

福田会員は、EC域内における国境の廃止という画期的な試みは人の自由移動を促進し、各加盟国の問題解決能力の限界や国家的利益の対立を乗り越えさせ、EC市民の超国家的利益や欧州市民権の確立を志向する実験であると論じた。馬場の報告要旨については、初瀬龍平編『内なる国際化』（三嶺書房）所収の上記同題名の小論を参照されたい。尚、本分科会は、秋の学会に「部会」を設定すべく、報告者を募っている。希望者は馬場迄。

### 国際交流分科会

杉山 恭(青山学院大学)

当分科会の前回報告以降の活動状況は次の通りです。

第43回研究会 1月30日(土)

Edward C. Stewart (International Christian University) "Prospects of Japanese Corporation with the West: Problems in Research Issues"

第44回研究会 3月11日(金)

ギルバート・C・ジョージ(豪日交流基金東京事務所長)「日豪文化交流の現状と将来」

第45回研究会は、次の要領で開催する予定です。

日時 4月23日(土)午後2:00~4:00時

場所 青山学院大学新館7階 第12会議室

報告 杉山 恭(青山学院大学) 「国際政治学会(IISA)・国際教育・文化・科学交流学会(ISECSI) 1988年度研究大会に見られるアメリカの国際政治研究の現状」

なお、当分科会研究会参加その他のお問合せは、下記にお願いいたします。

日本国際政治学会国際交流分科会事務局

青山学院大学国際政治経済学部417号室

〒150 東京都渋谷区渋谷4-4-25

Tel. (03) 409-8111 (内線2417)

### 国際政治学会関西例会

豊下 植彦(京都大学)

関西例会では、昨年度以下のように研究会を催しました。

日時 4月25日

報告者 田所昌幸氏(姫路独協大学)

テーマ 「国際通貨秩序の政治経済学」

日時 7月4日

報告者 関 寛治氏(立命館大学)

テーマ 「現代国際政治理論の展開 — 行動論革命以後と国家 —」

日時 9月26日

報告者 田中義皓氏(京都産業大学)

テーマ 「ミニ国家を考える — ミニ途上国をめぐる国際関係と経済開発上の諸問題 —」

日時 11月20日

報告者 高松基之氏(帝塚山大学)

テーマ 「レーガン大統領の政策決定スタイルの特徴と問題点 — 歴代大統領との比較について —」

なお、次回の研究会は、以下を予定しています。

日時 4月9日

報告者 渡辺正志氏(神戸大学)

テーマ 「帝国支配と従属地域の対応 — イギリスによるイラクの委任統治 —」

## 物 故 者

### 堀川武夫教授 ご逝去

本学会会員であり、長年にわたり理事を務められた堀川武夫広島大学名誉教授が、本年1月17日、広島市郊外宮島口のマンションで逝去された。享年75才。

教授は明治44年、広島県竹原に生れ、東京帝国大学法学部卒業後、同盟通信、共同通信を経て、広島大学政経学部の創設に加わり、定年まで政治史および外交史を担当された。対華21ヶ条要求についての先駆的な実証研究をはじめ、日本外交史、国際政治史に関する業績は数多い。本学会の創設にも関与され、『国際政治』19号の日清・日露戦争特集号の総論も執筆された。法学博士。常に背筋をピンと伸ばして、乱れることなく酒をたしなまれる姿を想い起される方も多であろう。御冥福を祈りたい。

(五百旗頭真)

奥 源造会員(日大講師)が、1987年12月11日に、心筋梗塞のため逝去された。67才であった。奥会員は東京外大卒業後、毎日新聞社に入社、ジャカルタ支局長としてインドネシアの九・三〇事件の報道にあたった。昨年6～8月『毎日新聞』夕刊に連載した「帰らなかった日本兵」に心血を注がれた。昨秋の東外大での国際シンポジウムに元気に参加されていたお姿が偲ばれる。謹んでご冥福を祈ります。

今井庄次会員(東外大名誉教授)が1988年1月19日、心臓発作のため逝去された。64才であった。今井会員は、本学会「日本外交史研究会」の草創期の日英同盟に関する報告をはじめ、日本の対外交渉史研究に足跡を残された。愛知学院大学教授として、国際交化学を担当されていた。謹んでご冥福を祈ります。

## お 知 ら せ

当学会の英文ニューズレター第1号が対外交流委員会の有賀貞会員(事務局長)の編集でこの3月中旬に発行されました。懸案のものでしたので、ご利用されたき場合には、当学会事務局へお申し込み下さい。

## 隣接学会大会開催予定

日本政治学会	
次 回 大 会	10月1日(土)・2日(日) 広島大学
共 通 論 題	「国家論の再生とその課題」
国際法学会	
春 季 大 会	5月15日(日) 神戸市立外国語大学
共 通 テ ー マ	「国際環境法」
アジア政経学会	
関 東 部 会	5月14日(土) 都立大学
関 西 部 会	6月19日(日) 京都大学東南アジア研究センター
国際経済学会	
全 国 大 会	10月15日(土)・16日(日) 同志社大学
共 通 論 題	「世界経済の現局面 — 総括と展望 —」
日本平和学会	
春 季 大 会	6月4日(土)・5日(日) 立命館大学
共 通 論 題	「平和と自由を求めて」(仮題)

## 編 集 後 記

暖冬とはいえまだ雪の降るモスクワやアルバニアを除く全東欧の駆け足旅行から戻って見た日本は桜が満開の東京ドームの開幕、青函トンネル、瀬戸大橋の開通にわき、暗い貧しい彼の地とは天地雲泥の差と痛感させられました。ペレストロイカの受け取り方も様々でした。

編集事務担当者が矢島文絵から小沢真澄に変わりました。よろしく。前号以来会員の訃報相ついでいます。編集部でも遺漏ないように努めていますが、お気づきの会員はぜひお知らせ下さい。(文責・宇佐美)

### <ニューズレター委員会>

中嶋嶺雄(主)、宇佐美滋(副)、伊豆見元、井尻秀憲、河原地英武、小沢真澄(編集事務)

1988年4月10日発行  
日本国際政治学会  
ニューズレター委員会  
〒114 東京都北区西ヶ原4-51-21  
東京外国語大学 中嶋嶺雄研究室内  
Tel. (03) 917-6111 ex. 322  
発行人 宇野 重昭  
編集人 中嶋 嶺雄  
印刷所 東洋出版印刷株式会社